

指導のねらい

文と文との意味のつながりに注意したり、文の構成についての理解を深めたりすることができるようにする。

課題の見られた問題の概要と結果

A 4 文と文との意味のつながりを理解し、文の論理を考えて書く。

正答率60.6%

学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと

エ 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

〔第3学年及び第4学年〕 言語事項

(1)オ (ウ) 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使うこと。

授業アイデア例

例1 は課題を取り立てて指導する場合、例2 は課題の解決を図る単元を通して指導する場合の具体例

例1 調査報告文を書くために、必要となる複数の文を一文に要約することで、文と文との意味のつながりに注意する。

1 調査報告文を書くために、収集した資料を読む。
例：平成19年度調査B[2]【資料1】

2 資料の中から報告する箇所を選び、文と文との意味のつながりを考えながら、一文に要約する。
○ 話題の中心的な文に着目する。
○ 反復する言葉に着目する。

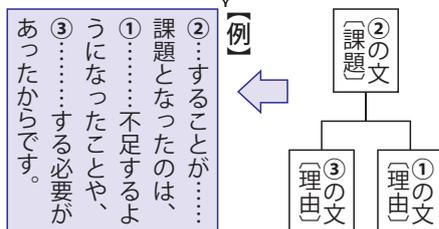
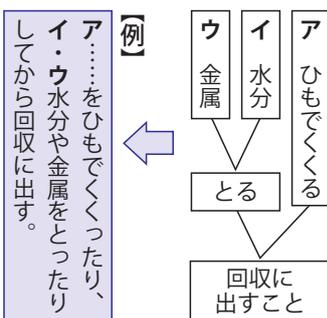
3 上記2を踏まえて、そのほかに必要な箇所を要約しながら、調査報告文を作成する。

【反復する言葉に着目して一文にする例】

ア 同じ種類の古紙をひもでくくり、回収に出すこと。
イ 水分をとってから回収に出すこと。
ウ 金属をとってから回収に出すこと。

【話題の中心的な文に着目して一文にする例】

…①社会や経済の発展にとともに、紙はより多くの分野で使われるようになり、新しく木から作り出す紙だけでは不足するようになってきました。②そこで、一度使い終わった紙を古紙として、再生利用することが世界的に重要な課題となりました。③紙の原料である森林を守るためにも、古紙を利用して、むやみに木を切ることがないようにする必要があります。…



例2 文の意味を分かりやすくするために、長い一文を複数の文に分けて書くことで、文の構成についての理解を深める。

第一次
○ 一文が長くなることで、文の意味が分かりにくくなる事例について話し合い、学習課題「一文の意味を分かりやすくしよう」を設定する。
例：平成20年度調査A[3]「文章を推敲する」

第二次
○ 右の事例の意味が分かりにくくなっている理由を話し合い、主語と述語に着目して一文を分けた上で、接続関係を整えて複数の文に分けて書く。
○ 以前書いた意見文などを読み返して、意味が分かりにくい長い一文を取り出し、複数の文に分けて書く。

第三次
○ 学習を振り返り、意味が分かりにくい長い一文を複数の文に分けて書くことの効果についてまとめる。

【一文が長くなることで、意味が分かりにくくなる事例】

先生に相談すると、「あなたの好きなことが、学校のためにつながるとよいですね。」と話してくださったので、花が好きなところを生かせばよいと気づいたので、花いっぱいの子供らしいな学校にしようと思った。

教師：意味が分かりにくいのは、なぜでしょうか。

「の」が二回続いているから、分かりにくいと思います。

【主述に着目して一文を分けた例】

○ わたしは、先生に相談した。
○ 先生が、「あなたの好きなことが、学校のためにつながるとよいですね。」と話してくださった。
○ わたしは、花が好きなところを生かせばよいと気づいた。
○ わたしは、花いっばいのきれいな学校にしようと思った。

【複数の文に分けて書いた例】

先生に相談すると、「あなたの好きなことが、…つながるとよいですね。」と話してくださった。そのことで、わたしは、…を生かせばよいと気づき、花いっばいのきれいな学校にしようと思った。